

# 肢体不自由とは

肢体不自由のある人の中には、上肢や下肢に切断や機能障害のある人、座ったり立ったりすることが困難な人、同じ姿勢を維持することが困難な人などがいます。



移動については、杖などを使用して自立歩行できる人もいます。また、脊髄損傷や頸椎損傷による機能障害のほか、脳性まひなどにより、立位の姿勢が難しく、車椅子を使用している人もいます。

下肢に機能障害のある人が多いですが、上肢にも障害のある人の中には、電動車椅子を使用している場合があります。



## ☆コミュニケーションの配慮とポイント

障害の部位や程度は様々で、介助する必要がないこともありますので、声をかけて介助が必要かどうか確認してください。



脳性まひや脳血管疾患などの後遺症による肢体不自由や義足の場合は外見からは障害の程度がわかりにくいことがあります。

☹ 手の震えのため、文字を書いたり、狭いスペースに記入することが困難な場合があります。

そんな時は… ➡ 声をかけて代筆等の手伝いをしましょう。

☹ うまく発音できない場合や、ゆっくりとしか話せない場合があります。

そんな時は… ➡ 分かったふりをせずに相手が伝えたいことを確認しましょう。スマートフォン、タブレットの活用も有効です。

⚠ 言葉をうまく話せない方に対して子どもに対するような接し方をしないようにしましょう。

☹ 脊髄の損傷により感覚がなくなり、体温調節がうまくできない場合があります。熱中症ややけど等になってしまうこともあります。

そんな時は… ➡ 様子を見て、空調の温度を調節しましょう。

下肢に障害のある人は、段差や階段、手動扉のある場所で介助が必要になる場合があります。

歩行が不安定で転倒しやすい人もいます。一緒に歩く際は、相手のペースに合わせてください。

特に雨の日は通路が濡れて、杖や義足が滑りやすいので注意しましょう。



階段を上るときは、斜め後ろから介助しましょう

階段を下るときは、一段下で斜め前に立ちましょう

参考: スポーツ東京インフォメーション [https://www.sports-tokyo-info.metro.tokyo.lg.jp/sasaeru/shospomanual/disability\\_sports03.html](https://www.sports-tokyo-info.metro.tokyo.lg.jp/sasaeru/shospomanual/disability_sports03.html)

車椅子の介助には、「介助者の顔が見えない」「位置が低いので速く感じる」など、介助を受ける利用者にとって不安になりやすい要素が多くあります。操作方法や介助のポイントを押さえて安全に十分配慮し、事故を未然に防ぐことも重要です。

事前に「動きます」「曲がります」など声掛けをしましょう

前向きで下りると乗車者が前方に転倒する危険があるので後ろ向きでゆっくりとさがりましょう

車椅子のそばを離れる時は必ず駐車用ブレーキをかけましょう

フットレストに足が乗っていることを確認しましょう

車椅子を使用している場合、立った姿勢で話されると上から見下ろされている感じがします。同じ目線で話すようにしましょう。

また高いところにある物や、床面の物に手が届かなかったり、通路がふさがれて通れなかつたりすることがあります。「お取りしましょうか?」と声をかけたり、通路を確保したりするなど必要な支援を行いましょう。



このマーク知ってる!?

### 【身体障害者標識】

肢体不自由であることを理由に運転免許に条件を付された方が車に表示するマークです。やむを得ない場合を除き、このマークをつけた車に幅寄せや割り込みを行った場合には、道路交通法違反となります。

